



今井小だより

第10号
令和5年
1月10日
青梅市立今井小学校



今井小HP

新たな1年のスタート

校長 神尾 健彦

今年の干支（えと）は、「癸卯」（みずのとう）です。干支というと十二支を思い浮かべますが、本来は十干と十二支を組み合わせて60種類で表すのだそうです。「癸」は順序で言えば最後にあたり、一つの物事が収まり次の物事への移行をしていく段階です。また「卯」のうさぎは「茂」という時期であり、繁殖する、増えるという段階にあたります。その両方を備えた「癸卯」は、去年までで様々なことの区切りが付き、次へと向かっていく、そこに成長や増殖といった明るい世界が広がっていくと解釈することができるかもしれません。

ちなみに60年前の1963年、前回の「癸卯」の年には、毎週放送される国産TVアニメーション第1号「鉄腕アトム」の放送が始まりました。毎週放送するためにコマ数を少なくしたりセル画を使いまわしたりする工夫がなされ、それは現在にも連なる日本のアニメーション文化の手法となりました。また、NHKの大河ドラマの第1作目や「3分クッキング」もこの年から始まりました。超ロングセラーの「家庭用焼きそば」などが世に出たのもこの年だそうです。まさに新たなものが始まり、後世につながっていく年と言えるのかもしれません。

さて、文部科学省は昨年12月に「生徒指導提要」を12年ぶりに改訂を行ないました。いじめや不登校、SNSに関わる問題や性的マイノリティ等、子供たちを取り巻く環境の変化や多様化・複雑化する生徒指導課題に柔軟に対応するようまとめられています。今回の改訂は未然防止に重点が置かれています。そのためには子供一人一人が「自己指導力」を身に付けることが重要であるとされています。「自己指導力」とは、子供が、深い自己理解に基づき、「何をしたいのか」、「何をすべきか」、主体的に問題や課題を発見し、自己の目標を選択・設定して、この目標の達成のため、自発的、自律的、かつ、他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力です。これは、本校の今年度のスローガンである「自主・自律の基礎を培う」ことと一致するものです。

この力を育むためには、自己有用感を高めることがとても大切です。保護者、教師、仲間から認められ、人の役に立っているなど他者から評価されることで高まります。特に仲間や友人からの肯定的な評価が効果が高いといわれています。学級や様々な集団の中で子供同士がお互いを認め合い、高め合える集団作りをこれからも大事にしていきます。

昨年までは、新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、子供にとっても学校教育にとっても厳しい冬のような時期でした。その中にありつつも子供の「自主・自律」に向けて様々な取組を続けてきたことで、少しずつ、しかし確実に、新しい「芽」が芽吹き始めました。それを今年はしっかりと根を張り生い茂らせ、子供の成長につながるようにしていきたいと思います。